

欧米グローバル企業の間で活用されている、海外赴任者専用の医療保険とは。

マーサージャパン株式会社  
グローバル ベネフィット コンサルティング部門代表

石田 実氏

## 海外赴任者医療保障の重要性

—— 欧米グローバル企業では海外赴任者に対し専用の医療保険を提供するのが一般的だとか。

欧米企業が海外展開を進める過程で、海外赴任者専用の医療保険、「グローバル医療保険」が発達し、多くの企業が利用しています。海外では日本のような国民皆保険制度は稀で、会社が従業員に提供する団体保険型の民間医療保険が発達しており、総報酬パッケージの一部としてこの医療保険を提供するのが標準となっています。海外赴任は、異国で生活することによる「カルチャーショック」を伴う一方で、赴任する国や地域によって医療ケアへのアクセスや充実度が異なり、帯同家族も含めて会社としてサポートを確立する必要があります。そのサポートとは医療保障にとどまらず、健康診断などの予防治療やメンタルヘルスケア、緊急搬送など非常に広範です。

当グループが2023年5～7月に海外のグローバル企業148社を対象に行ったサーベイによると、海外赴任者向けの医療保障制度導入の目的として多かったのは、「安全配慮義務」(90%)、「コンプライアンス対応」(81%)、「リスクへの備え」(71%)、「人材の採用・定着」(70%)となっており、医療保障を単なる医療費還付制度と捉えるのではなく、赴任者に対するケアを提供するトータルソリューションと認識していることが分かります。また、従業員側も、

海外赴任者処遇上、医療保障を海外給与に次ぐ重要アイテムとして認識しています。

—— グローバル医療保険とはどのようなものですか？

特徴として、カバー範囲が広いことが挙げられます。予防接種、既往症の治療、妊娠・出産、不妊治療、歯科治療も保障対象に含まれますし、医療上必要な治療であれば、高額になりがちな入院や手術についても支払い上限はありません。

メンタルヘルスカウンセリングやオンライン診療、日本企業向けの健康診断もオプションで付帯できます。例えばメンタルヘルスであれば、外来や入院、オンライン診療だけでなく、EAPサポート(電話やオンラインでの軽易なカウンセリング)にまで保障対象を広げられるので、より積極的なリスク回避策をとることができます。

—— 広範囲な分、保険料は高いのでは。

グローバル医療保険は、広範な保障範囲をもつ一方で、コスト抑制機能も備えています。自由診療が一般的な海外では、医療機関が自由に価格を決めることができますが、グローバル医療保険では、保険会社が事前に割引交渉を済ませた提携病院が多く存在しており、提携病院受診時には、提携外病院受診時と比べ、医療費が安くなります。毎年、一般物価指数以上に医療費が上昇している海外では、このコスト抑制機能が重要視されています。また、「医療上必要な治療なのか」「医療費請求額が適正か」を保